

#### 4 緩やかな増加が続く生産活動

本県の実業活動は、2000年は輸出主導で堅調に推移したが、01年に入ると、米国経済の減速による輸出の後退、設備投資を始めとする国内需要の伸び悩みにより停滞した。しかし、02年に入ると、海外景気が徐々に回復したことにより輸出が増加し、生産回復の動きがみられた。03年前半は、生産活動は概ね横ばいで推移したが、後半に回復基調となった。04年は、03年後半からの回復の動きを受け、生産指数はほぼ横ばいながらも堅調に推移した。05年に入ってから好調な輸出に支えられ、緩やかな増加傾向が続いている。

##### (4年連続で上回った生産指数)

05年の鉱工業生産指数は107.3で前年比4.0%の上昇となり、4年連続で前年を上回った。愛知県鉱工業指数の業種分類に基づく業種別にみると、全20業種中、一般機械工業、輸送機械工業、鉄鋼業など12業種で上昇し、繊維工業、食料品工業など8業種で低下した。

生産指数の動きを月別にみると、03年12月以降は、04年10月の1か月を除いて回復の動きが継続しており、特に05年に入ってから前年同月比5%増前後で安定的に推移している。

こうした動きを四半期別に前年同期比でみると、

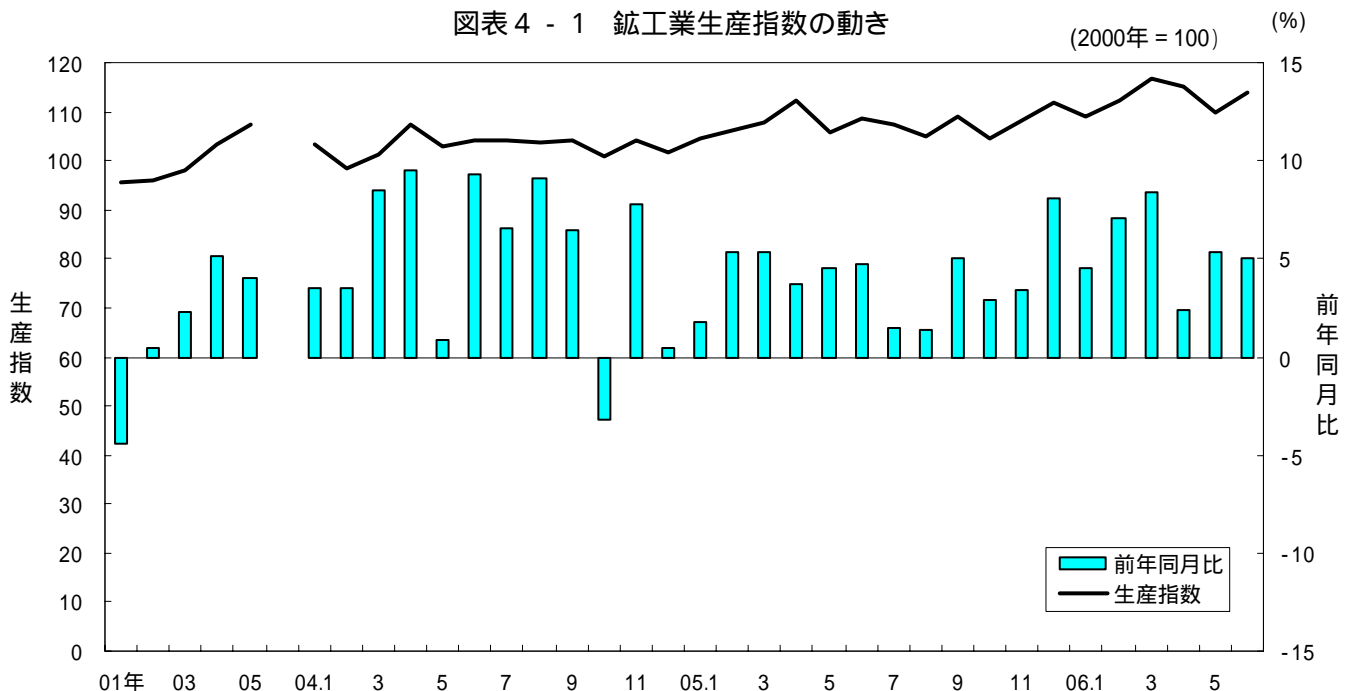
01年10-12月期にボトムを脱した後、低下幅を縮小し、7-9月期にはプラスに転じた。03年7-9月期には輸出の鈍化によりやや低下したが、10-12月期以降、輸出の増加や設備投資の回復に伴い上昇傾向が顕著となった。04年10-12月期には気候要因や前年同期の反動で一時的に伸びが縮小したが、05年には好調な輸出に牽引されて再び上昇傾向となり、06年に入っても緩やかな上昇が続いている(図表4-1)。

##### (ともに増加した投資財、消費財、生産財)

05年の生産を財別にみると、投資財のうち建設財は、公共工事の減少が続いていることなどから前年比で2年連続の減少となる4.6%減となったが、資本財は国内及び海外の設備投資の増加の動きなどを受けて3年連続の増加となる同10.0%増となり、投資財全体でも3年連続の増加となる同6.5%増となった。消費財のうち非耐久消費財は、前年の同2.0%減から05年は同2.2%増となり、また、耐久消費財も同2.3%増となったことから、消費財全体では同2.3%増となった。生産財は生産回復の動きに伴い、02年以降4年連続の増加となる同4.0%増となった。

このように、05年は景気回復の効果から、投資財、消費財、生産財ともに、1年を通じて前年比増の動きが続き、06年に入ってから前年同月比増の動きが続いている(図表4-2)。

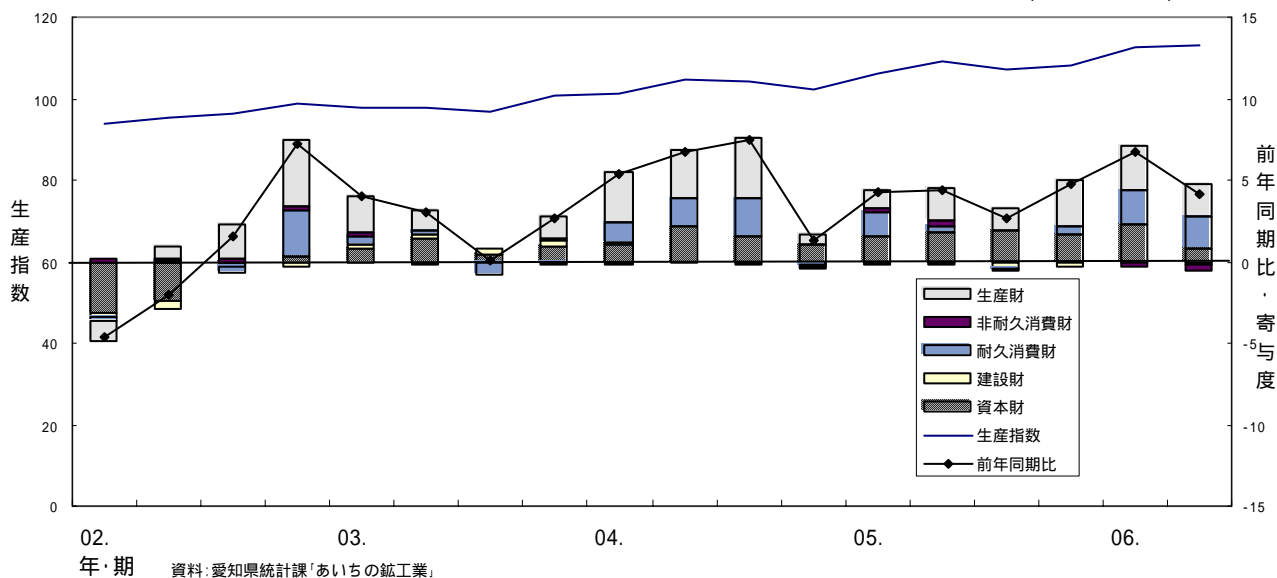
図表4-1 鉱工業生産指数の動き



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表4-2 四半期生産指数の推移

(2000年 = 100) (%)

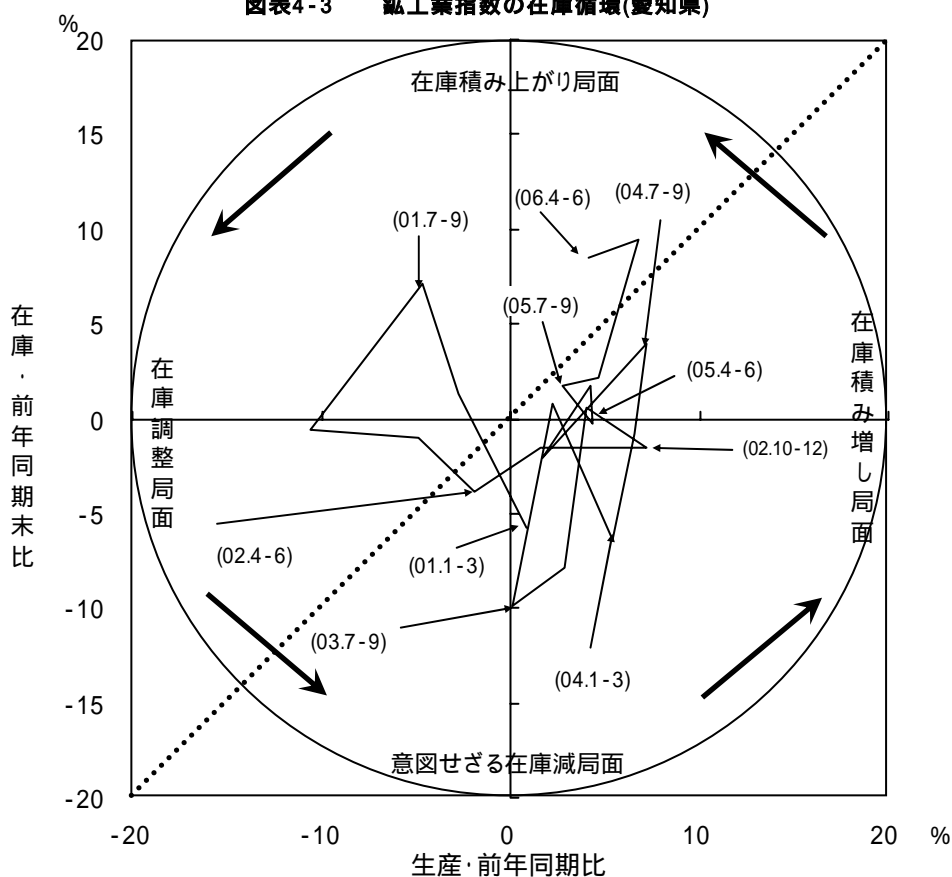


(在庫循環図からみた生産と在庫の動き)

本県の生産と在庫の動きを在庫循環図でみると、2001年1-3月期に景気が後退期に入り、4-6月期、7-9月期と生産は減少を続け、在庫は上昇し、以降「在庫調整局面」に入った。02年7-9月期、10-12月期と景気回復に伴い生産が緩やかに増加してきたが、依然デフレ下にあり、在庫投資は抑えられた。03年4-6月期、7-9月期にはやや生産が伸び悩み「意

図せざる在庫減局面」に入った。04年1-3月期に入り生産が回復し、7-9月期にかけて「在庫積み増し」局面に入ったが、デフレの長期化により本格的な「在庫積み上がり」局面には至らなかった。05年には景気回復が本格化して生産増加が継続し、06年になって在庫積み上がり局面に入ったところである(図表4-3)。

図表4-3 鉱工業指数の在庫循環(愛知県)



資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

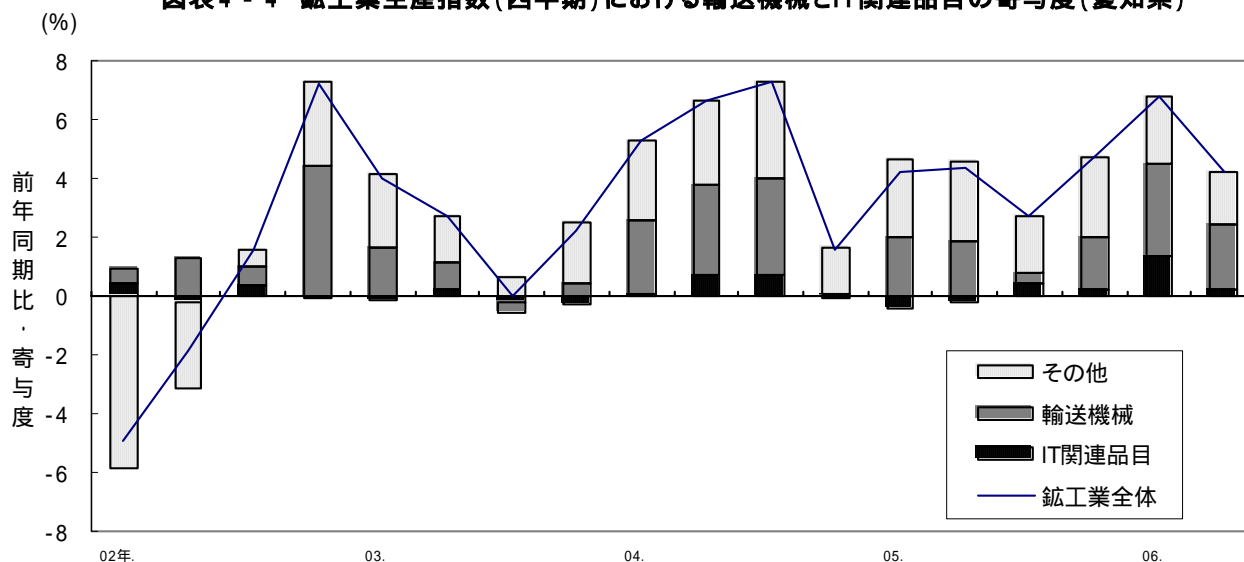
### （輸送機械とIT関連品目の寄与度）

次に、本県の主力産業である輸送機械とわが国の主要生産品目を構成するIT関連品目についてみていく。

輸送機械とIT関連品目のウェイトを全国と本県で比較すると、全国では輸送機械が12.3%、IT関連品目（経済産業省「鉱工業指数」の通信機械、電子計算機、電子部品・デバイス工業とした。）が15.2%と、輸送機械よりIT関連品目の方が大きいのに対し、本県では輸送機械が37.5%、IT関連品

目が3.9%と、輸送機械の割合がIT関連品目の約10倍もあり、全品目に占める割合も極めて大きい。このため本県では、輸送機械が生産の増減に寄与する割合が全国と比較して非常に大きく、逆にIT関連品目の寄与は小さい。このことから、04年後半にIT関連品目の輸出の伸びがアジアやアメリカ向けを中心に減速したことなどからわが国の経済成長が鈍化した際も、本県においてはその影響は小さかった。現在、輸送機械の寄与度は本県の生産増加のほぼ2分の1を占めるに至っている（図表4-4）。

図表4-4 鉱工業生産指数(四半期)における輸送機械とIT関連品目の寄与度(愛知県)



注 本県のIT関連品目は、通信機械、電子部品、電子計算機、ファインセラミックスの機能材の合計  
資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

### （主要業種の動向）

2005年は、前年に引き続き本県の主力産業である一般機械、輸送機械、電気機械などの伸びが続いた。06年に入ってから05年と同様の傾向が続いている（図表4-5）。

#### 一般機械工業

2005年の一般機械の生産指数は113.5で、前年比14.4%の上昇となり、3年連続で前年を上回った。これは、世界経済が回復し輸出が好調に推移したこ

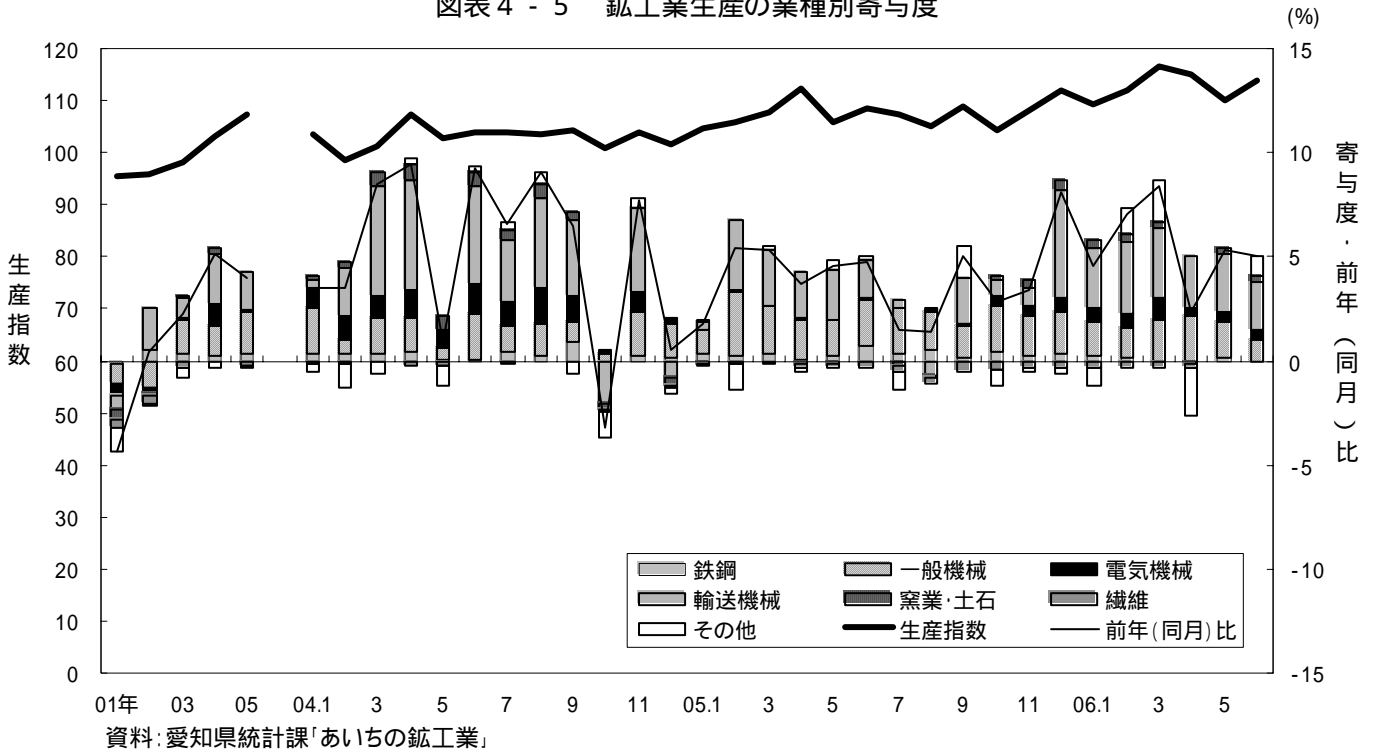
とや、04年に引き続き国内経済が回復し、自動車、一般機械など幅広い業種で設備投資の動きが拡大したことから、産業用ロボットが前年比87.3%増と大幅に増加したほか、金属工作機械が前年比23.1%増となったことなどによる。

中部経済産業局の「金属工作機械受注状況」で中部地方の金属工作機械メーカー主要9社の受注状況をみると、国内受注合計が前年比13.9%増、海外受注も北米向けが同21.8%増、EU向けが同6.4%増、アジア向けが同7.1%増と、特に北米向けが好調で

あり、逆にアジアのうち中国向けは前年比 12.1%減と設備投資に一服感がみられる。海外受注合計では同 11.2%増、国内受注、海外受注を併せた全体で同 12.5%増と、04 年の 42.8%増と比べ増加幅は縮小し

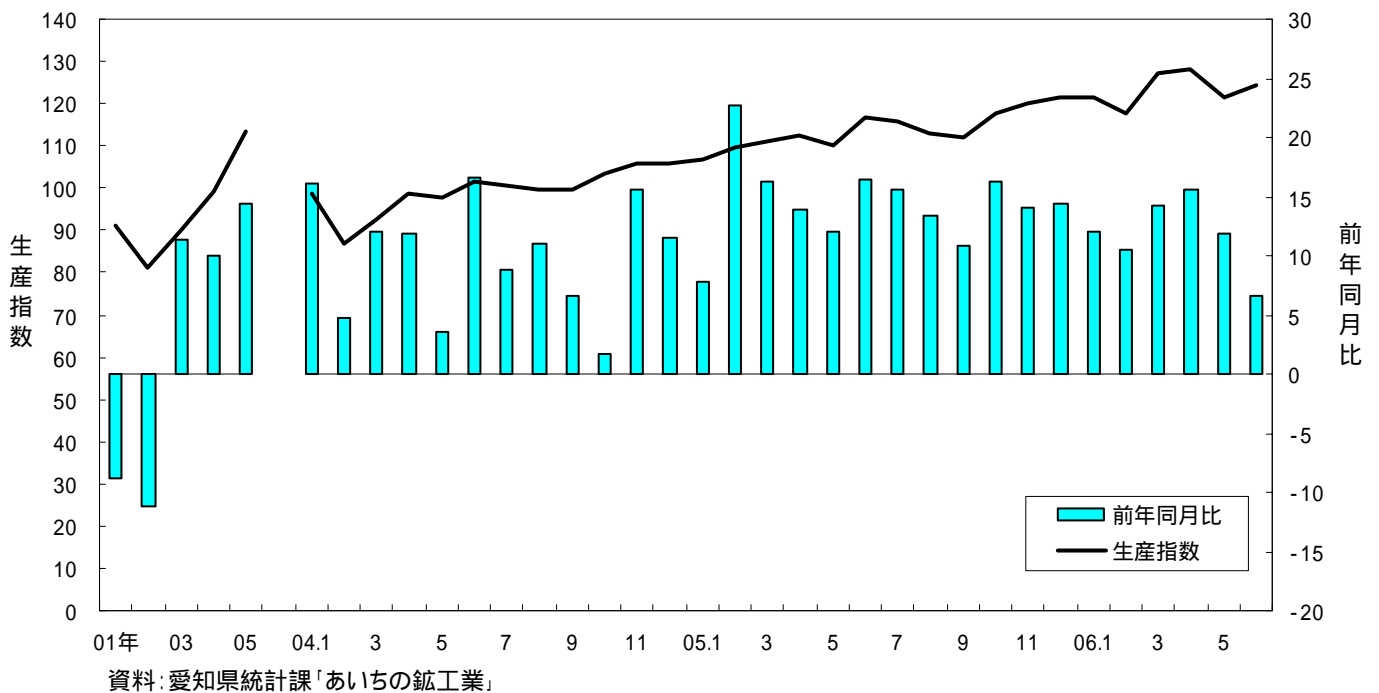
ているが、引き続き二桁増の好調な受注が続いている。06 年に入ってから、企業の積極的な設備投資を反映し、前年同月比増の動きが続いている（図表 4 - 6、4 - 7）

図表 4 - 5 鋳工業生産の業種別寄与度

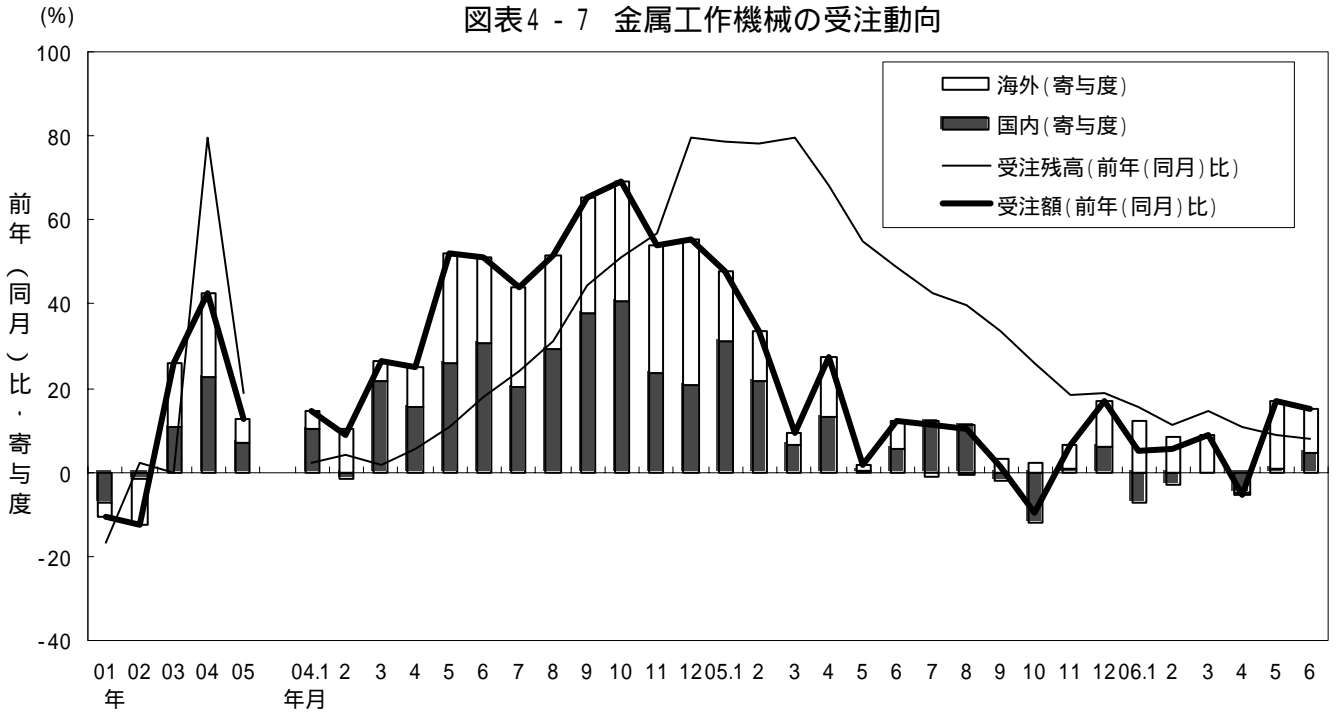


図表 4 - 6 一般機械の動向

(2000年 = 100) (%)



図表4 - 7 金属工作機械の受注動向



資料: 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

輸送機械工業

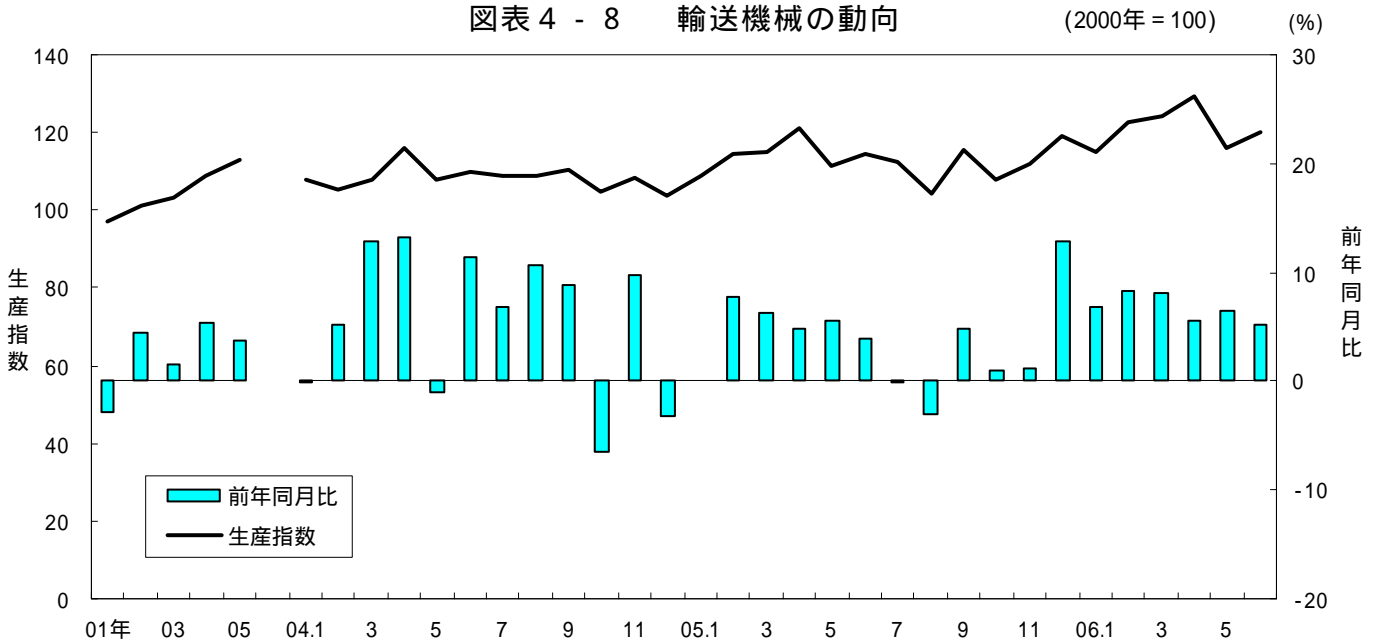
本県の基幹産業である輸送機械の 2005 年の生産指数は 112.7 で、前年比 3.8%の上昇となり、3年連続で前年を上回った。これは自動車部品が前年比 6.6%増、自動車が前年比 1.7%増となったことなど

による。

05 年の 1 年間の生産指数の動きをみると、ほぼ横ばいで推移した 04 年から、05 年に入ると緩やかな上昇傾向が 1 年を通じて継続し、05 年末からはより強い上昇傾向をみせている (図表 4 - 8 )

図表 4 - 8 輸送機械の動向

(2000年 = 100)

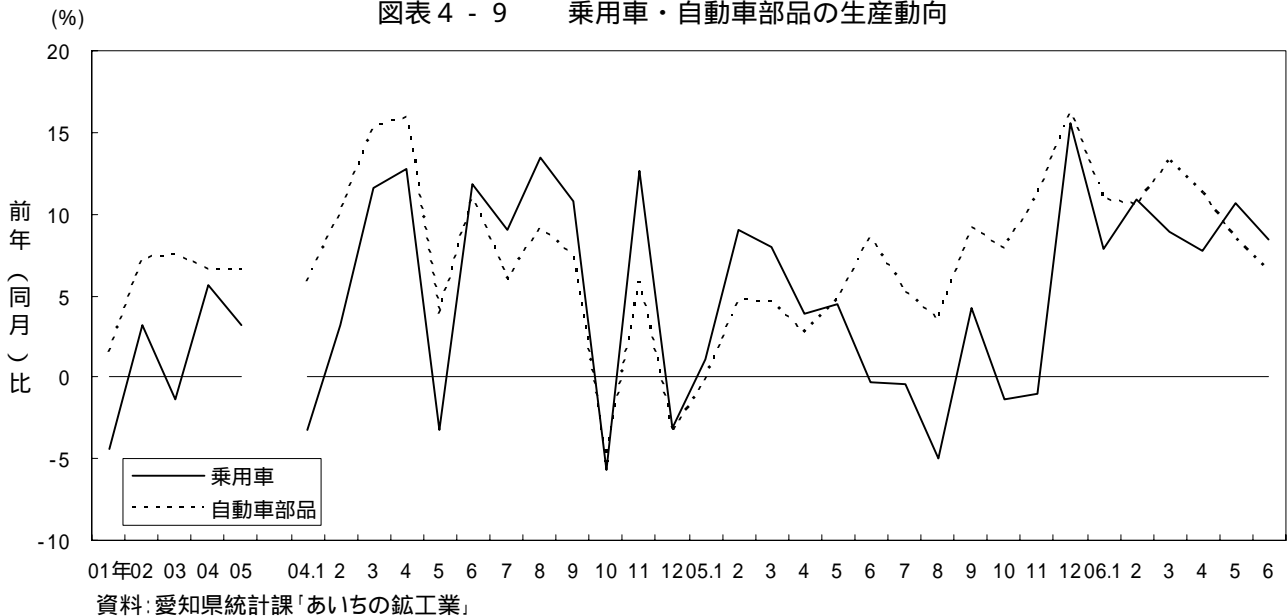


資料: 愛知県統計課「あいちの鉞工業」

輸送機械工業の中で約 60%のウェイトを占める乗用車生産の動きをみると、05年に入り国内の乗用車販売が前年比微減に転じた一方で、好調な輸出に支えられ、1年を通して概ね好調を持続した。また、約 30%のウェイトを占める自動車部品は、国内・海

外向けともに好調だった 03 年、04 年に引き続き、05 年も好調を持続した。06 年に入ってからも、国内販売が低調な一方で海外現地生産や輸出の増加が続いているため、乗用車、自動車部品ともに好調を持続している（図表 4 - 9）。

図表 4 - 9 乗用車・自動車部品の生産動向



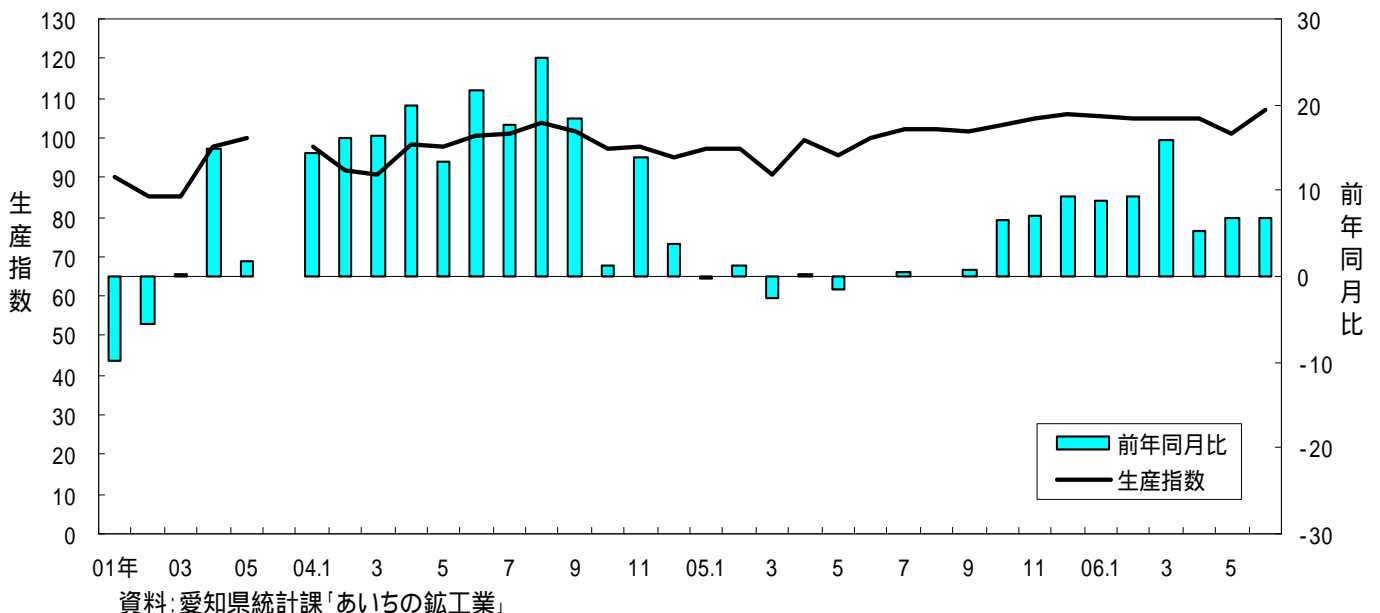
電気機械工業

2005 年の電気機械工業の生産指数は 99.7 で前年比 1.7%の上昇となり、3 年連続で上昇した。これは、自動車関連の内燃機関電装品が前年比 8.6%増、変圧器、電力変換装置等の静止電気機械が前年比 9.6%増となったことなどによる。

なお、04 年に同 2.4%増となり、減少傾向に歯止めがかかったかにみえたエアコン、電気洗濯機等の民生用電気機械は、05 年は同 5.3%減となり、再び減少した（図表 4 - 10）。

図表 4 - 10 電気機械の動向

(2000年 = 100) (%)



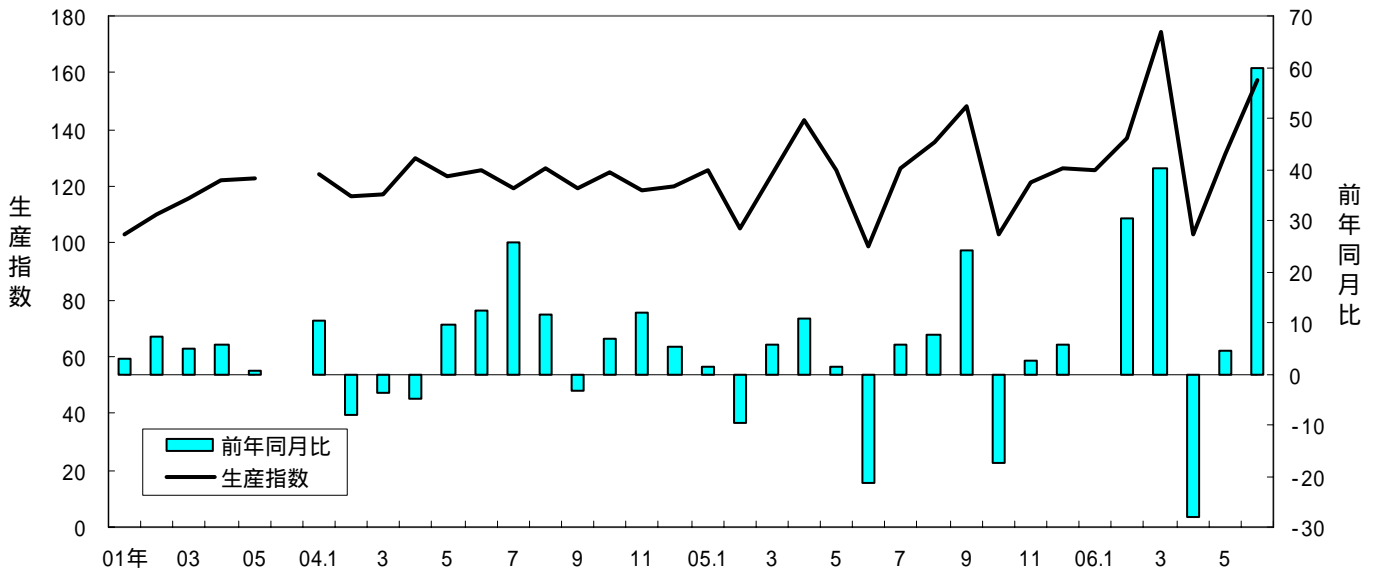
### 情報通信機械工業

2005年の情報通信機械工業の生産指数は123.1で、前年比0.7%の上昇となり、6年連続で上昇した。これは電子計算機が同1.6%増となったことなどによる。

00年に前年比18.5%増と急速に生産が拡大した

情報通信機械工業は、パソコン等の需要の一巡により、以後増加幅は縮小しており、05年もわずかな上昇にとどまった。しかし、06年に入りトリノオリンピックやサッカーの世界カップが開催されたことなどから、薄型テレビ等が大幅に伸びたことにより、生産は再び増加している(図表4-11)。

図表4-11 情報通信機械の動向 (2000年=100) (%)



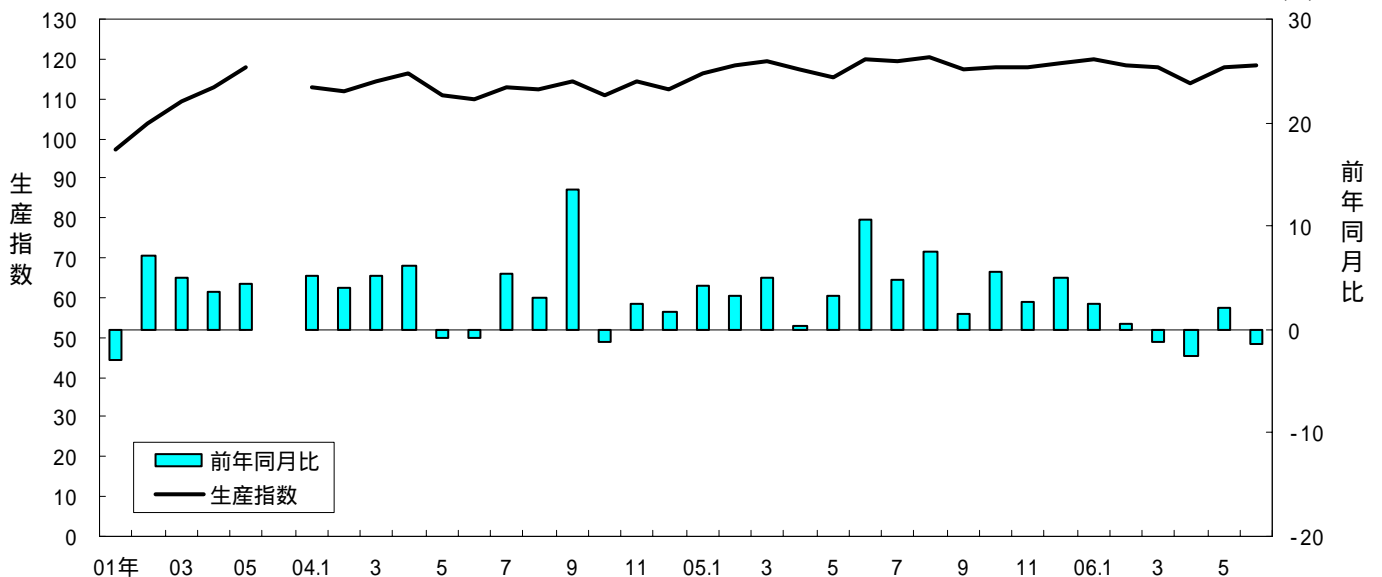
資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

### 鉄鋼業

2005年の鉄鋼業の生産指数は118.0で、前年比4.4%の上昇となり、4年連続で上昇した。これは主に熱間圧延鋼材が前年比5.8%増、素製品(含、鋼

半製品)が同4.7%増となったことなどによる。自動車関連向けや産業機械向けなどを中心に好調に推移したが、06年に入ってからには横ばい傾向となっている(図表4-12)。

図表4-12 鉄鋼の動向 (2000年=100) (%)



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

### 窯業・土石製品工業

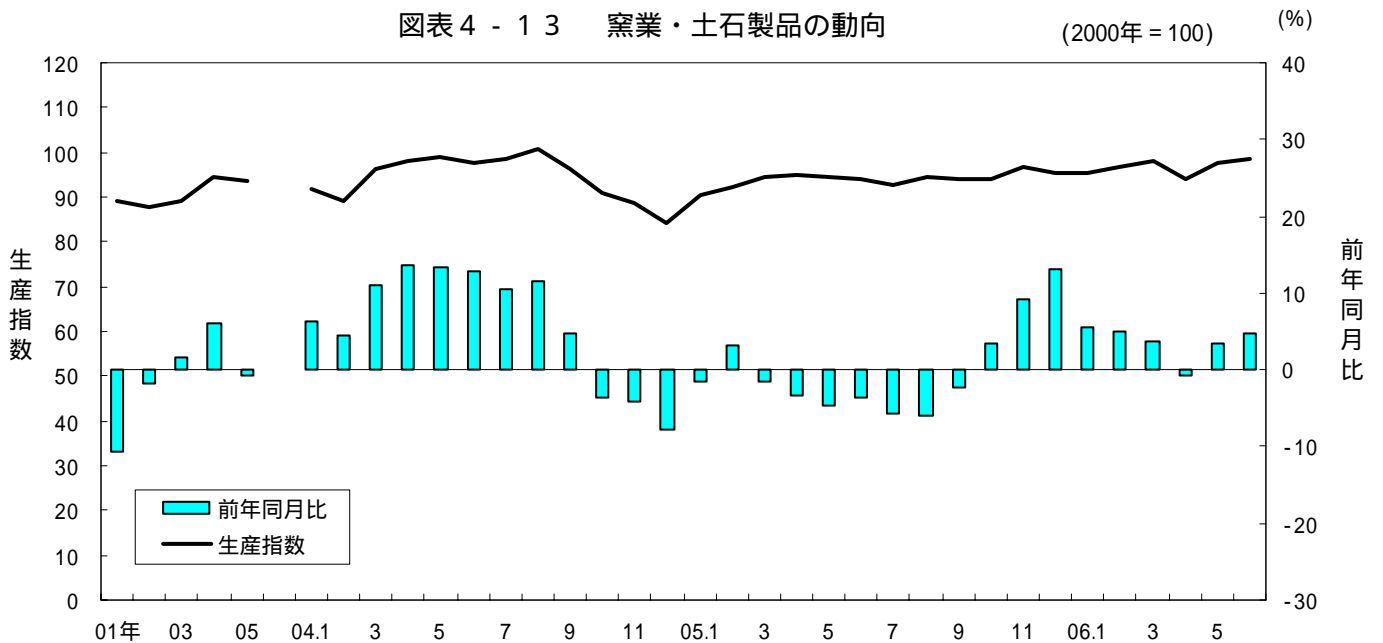
2005年の窯業・土石製品工業の生産指数は93.8で、前年比0.6%の低下となり、3年ぶりに低下した。

品目別にみると、住宅建設の好調等を受けてガラス・同製品と瓦が前年比増となったが、陶磁器、セメント製品など他の品目はすべて前年比減であった。これらの品目は、安価な輸入製品との競合や公共工事の減少により減少傾向が続いている。

また、ウェイトの高いファインセラミックスは、ITバブル崩壊により01年に前年比27.9%の大幅減となった後、02年、03年、04年と主に自動車の生産回復に伴って増加した。特に04年は自動車関連向けが好調なことに加え、情報通信機器向けなども持ち直したことから、前年比33.3%増と大幅に増加したため、05年はその反動で同0.9%減となったが、高い水準で横ばいに推移している（図表4-13、4-14）。

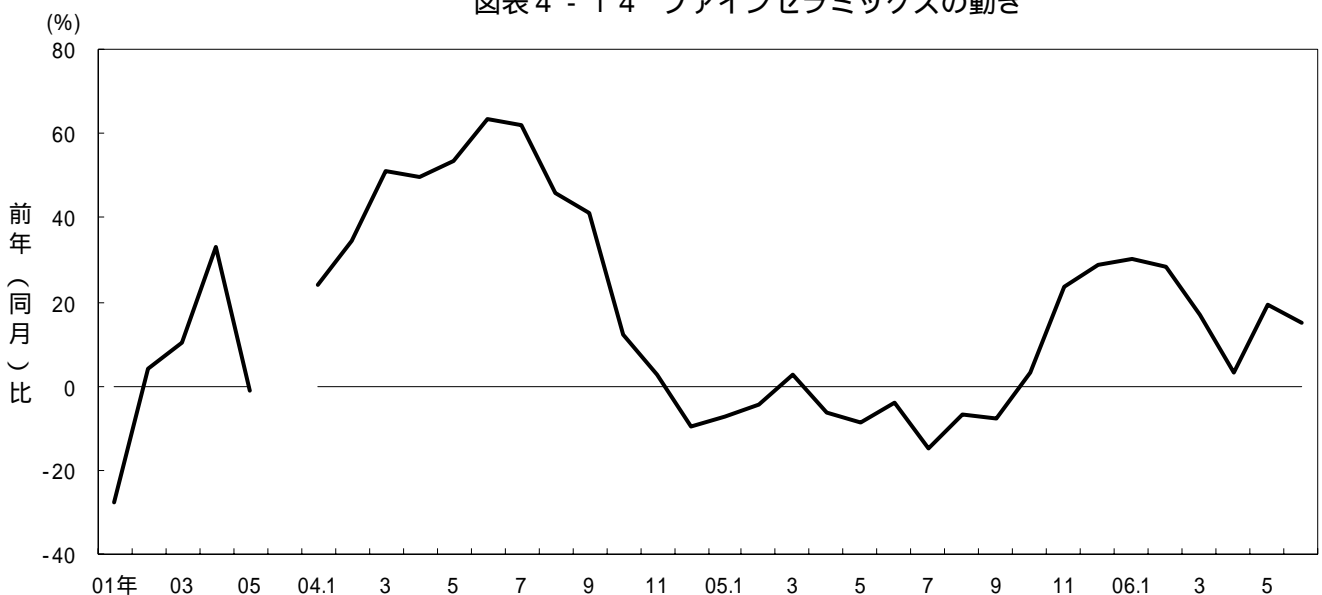
図表4-13 窯業・土石製品の動向

(2000年 = 100)



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表4-14 ファインセラミックスの動き



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」



### 繊維工業

2005年の繊維工業の生産指数は64.9で、前年に比べ7.2%の大幅な低下となった。これは、主にウェイトの高い織物が前年比7.9%減となったほか、染色整理が前年比10.6%減となったことなどによ

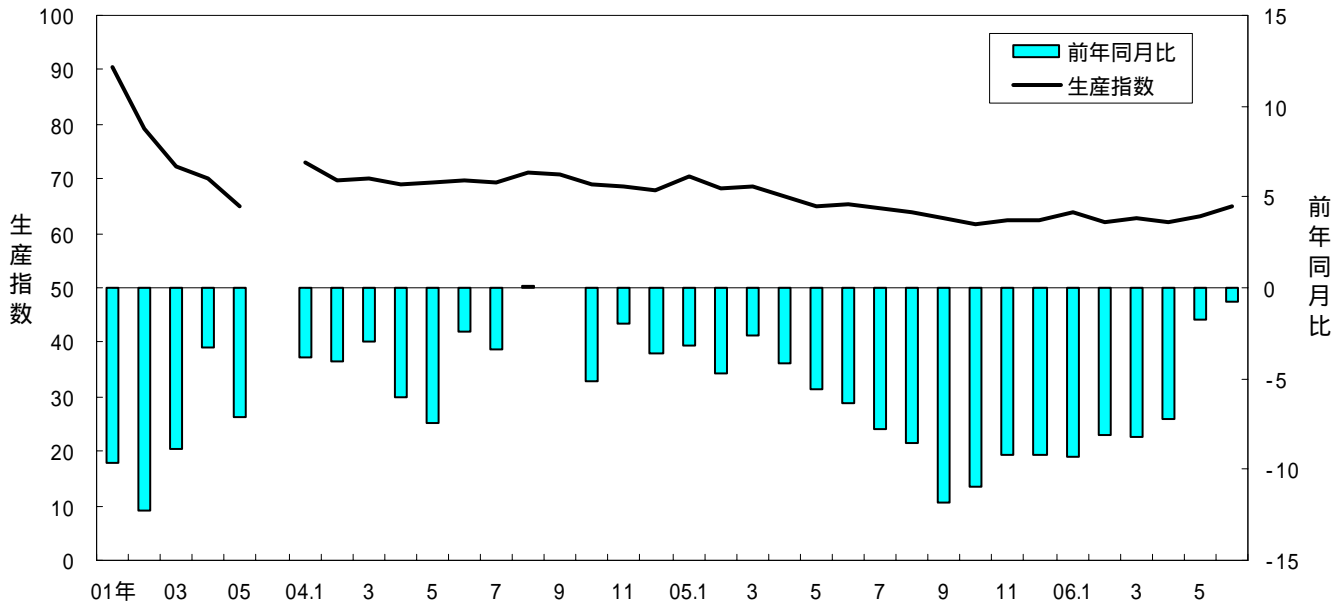
る。

繊維工業は、売り上げの停滞・減少、同業者間の競争激化、輸入製品との競争激化などのため、大幅な減少傾向が長期にわたって続いている（図表4-15）。

図表4-15 繊維の動向

(2000年 = 100)

(%)



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

### プラスチック製品工業

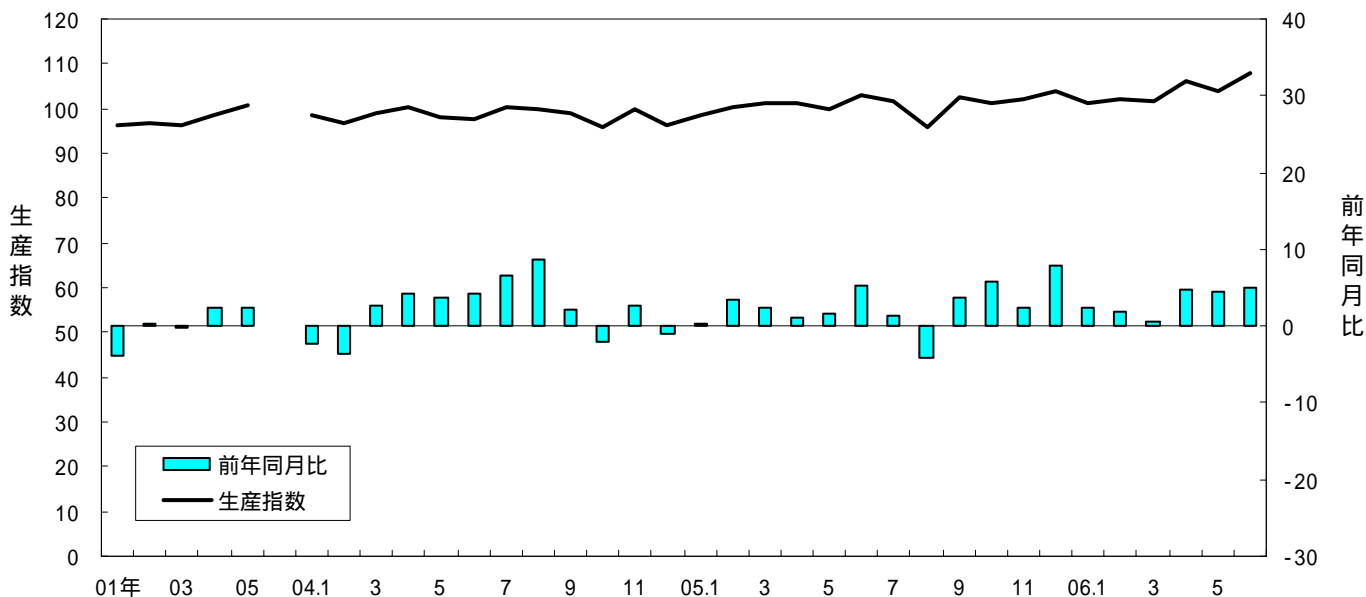
2005年のプラスチック製品工業の生産指数は100.9で、前年に比べ2.3%の上昇となった。これは、機械器具部品が前年比5.2%増となったことなどによる。本県におけるプラスチック製品工業は、輸送機械工業、一般機械工業、電気機械工業に次いで4

番目にウェイトの高い業種であり、このうち機械器具部品が約69%のウェイトを占めている。輸送機械や一般機械等の好調を受け、プラスチック製品工業は緩やかながら安定した増加傾向が続いている（図表4-16）。

図表4-16 プラスチック製品の動向

(2000年 = 100)

(%)



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」